

## 千葉市地域防災計画の主な修正内容

	重点項目	主な修正内容
共通編及び災害応急対策編(地震対策計画)	1. 自助・共助・公助の役割の明確化	<p><u>自助</u> ・家庭内備蓄の推進(食料や飲料水、物資を最低3日分備蓄)</p> <p>・災害時の自宅の強化(家具の転倒防止器具取付け、ガラスの飛散防止対策等)</p> <p><u>共助</u> ・避難所運営委員会の設置による運営の推進</p> <p>・自主防災組織、町内自治会、事業所等における備蓄</p> <p>・自主防災組織の育成と現実に即した訓練実施</p> <p>・災害時要援護者の安否確認、避難誘導</p> <p><u>公助</u> ・市及び公的機関の防災・減災に向けて行う取組や発災時の救助活動等の実施</p>
	2. 防災体制の強化	<p>・防災拠点施設の整備・強化</p> <p>・災害対策本部のバックアップ機能の位置づけ、(仮称)危機管理センターの整備</p> <p>・職員の配備及び活動体制の基準を見直し(全員配備:震度6強以上→6弱以上)</p>
	3. 情報収集伝達体制の整備	<p>・広報手段にちばし災害緊急速報メール、ちばし安全・安心メール、SNS等を追加</p> <p>・災害情報共有システムの導入</p>
	4. 避難所の設置運営	<p>・民間施設の避難所指定</p> <p>・拠点福祉避難所(二次避難所)の指定</p>
	5. 津波対策	<p>・津波注意報・警報等の収集・伝達、避難勧告・指示等に関する対策</p> <p>・市民等の避難行動・避難誘導を追加</p> <p>・津波避難ビルの指定や津波ハザードマップの作成・周知</p> <p>・津波避難は徒歩や自転車を原則とするが、災害時要援護者の避難支援を行う場合は、地域の実情に応じて自動車での避難を追加</p>
	6. ライフラインの確保及び民間事業者との連携	<p>・道路ネットワークの強化を図るなど災害に強い道路整備に努めることを追加</p> <p>・各施設の耐震性の強化を図り、地震に強いライフラインづくりを行うことを追加</p> <p>・飲料水、食品メーカー、コンビニエンスストアと食料物資等の供給に関する協定を締結</p> <p>・千葉県石油商業組合千葉支部と石油類燃料の供給に関する協定を締結</p>
	7. 液状化対策	<p>・住宅の液状化対策工法(建築物・地盤に施す対策工法)の広報や周知</p> <p>・市民が適切な判断ができるよう液状化の危険度、対策に対する情報提供</p>
	8. 帰宅困難者対策	<p>・一時滞在施設の確保、関係機関との情報連絡体制の構築、備蓄物資の確保等の役割と対応業務の明確化</p> <p>・帰宅支援ステーションへの支援要請など、徒歩帰宅者への支援対策の推進</p> <p>・「むやみに移動を開始しない」という基本原則を呼びかけるとともに、帰宅困難者等への速やかな情報提供の実施</p>
災害応急対策編(大規模事故災害対策)	9. 放射性物質事故対策	<p><u>想定</u></p> <p>・県外の原子力事業所や原子力艦は、地震、津波、火災、人為的ミス等による事故などを想定</p> <p>・核燃料物質の陸上輸送中の車両接触事故等を想定</p> <p><u>予防対策</u></p> <p>・職員や防災関係機関の活動体制、退避誘導體制、緊急被ばく医療体制</p> <p><u>応急対策</u></p> <p>・飲料水及び飲食物の摂取の制限、農林水産物の出荷の制限、食品の廃棄・回収等の措置</p> <p>・放射線量の測定、拡散程度に応じた規制</p> <p><u>復旧対策</u></p> <p>・各種モニタリング結果等の放射能に関する情報を正確にわかりやすく広報</p> <p>・汚染された汚泥や焼却灰等の廃棄物や土壌等の除染等の措置</p>